

市 町 村：白鷹町

タイトル：中山間地域農業の持続的な発展をけん引する法人経営体

～地域の仲間とともに、次世代の担い手が活躍できる周年農業の実践～

氏名(集団名)：農事組合法人アグリサービスこぐわ 代表理事 相模敏浩

1 受賞者の概要

「農事組合法人アグリサービスこぐわ」は、地域の担い手農業者を中心に組織された大豆の作業受託組織を経て法人化。現在は、水稻(50ha)、大豆(14ha)、そば(13ha)を行い、園芸作物(えだまめ、ダリア、ユーカリ、たらの芽、加工キャベツ)を計画的に組み合わせ、西横田尻地区の農地の4割強となる約85haを集積し、周年農業を実践している。

2 特色ある活動

(1) 組織運営

組織運営においては、品目ごとに責任者を置き、作業計画の作成と綿密な打ち合わせを行い、スムーズな管理体制を構築している。さらに、圃場の管理エリアごとに責任者を置き、日々圃場巡回を行いながらきめ細やかな管理を行っている。

地区の実質化された人・農地プランの中心経営体として、農地の集積を図り、効率的な作業体制を実現している。連作障害対策として輪作、田畑輪換及び土壌診断に基づく土づくりに取り組み、高収量・高品質生産を実現している。

水稻は、全量をJAのカントリーエレベーターを利用することで乾燥・調製に係る労力を他作物の管理に振り向けている。大豆、えだまめでは、既存の生産組織が所有する施設・機械を活用するなど効率的な生産に取り組んでいる。

(2) 地域の園芸振興をけん引

町内の先駆けとして、ダリアのハウス栽培やユーカリ、たらの芽を導入し、栽培技術の確立を図り周年農業を実践している。こうした取組を通じ、町内での各品目の生産拡大・品質向上に貢献している。

えだまめでは、当法人が部会の主力メンバーとして部会活動をけん引し、代表理事がJA白鷹枝豆部会の部会長を長く務め産地をリードしてきた。長期出荷体制確立や高収量確保に向けた実証への協力、新型機械の実演や新規栽培者向け栽培講習会の講師などを務め、置賜地域のえだまめ生産振興において重要な役割を果たしている。

3 今後の発展方向

設立時の構成員の高齢化が進み、今後、法人の経営を継承する人材の確保、育成が重要となっている。30～40代のメンバーには研修等への積極的な参加を誘導するとともに、学生の職場体験や、農業研修生なども積極的に受け入れる方針としている。今後とも、地域農業を支える担い手として安定した経営を継続させていくことがなによりの地域貢献と考えている。



「アグリサービスこぐわ」のメンバー



トラクターアタッチメント式のえだまめ収穫機